

会 長 対 談

(2010年6月14日 大阪ブロック協議会 事務局にて)



(滋 賀) 守山市議会議員 森貴尉
(奈 良) 奈良県議会議員 山本進章
(大 阪) 大阪府議会議員 青野剛暁
(兵 庫) 兵庫県議会議員 和田有一朗
(和歌山) 和歌山県議会議員 山下大輔

谷岡..

今年の近畿地区協議会、地域主権型道州制に力を入れていきます。近頃、橋下知事が立ち上げをされました、大阪維新の会は、道州制のうちのひとつと考えているのですが、『この国はもう破たんしかかっている』と、ギリシャではないですが、爆発する前に日本の新しいカタチをJＣで考えて、作っていかねばいけないと思っています。

今様々な関連書籍を読み返してみても、概念論というか、『道州制、中央がやってくれたらいいよね』っていう、なんとなくこうなったらいいっていう提言者で終わっているんじゃないかなって思います。今年の近畿地区、やっぱりJＣなんですね、批判や叩かれることを覚悟で、『こうなったらほんとに出来るよ』っていう、そろそろプロセスの部分にメスを入れて行く年にしたいと



谷岡会長

思いまして、現実に各都道府県で政治にたずさわっていらつしやる立場から道州制、エリア制というものについてどの様なお考えを持たれているかということをお聞かせください。

和田.. 私個人の意見ですよ。道州制そのものはもちろん賛成なのです。ただ、1点考え方で若干危惧するところがあります。道州制に地方主権論みたいなものを全てしてしまうと、国の統治というものは、出来ないことになってしまうのが出てくると思います。ある意味制限付き分権といつかね、地域主体型道州制みたいな... 要は国家という枠がある中に道州制は従属している。で、道州制は今までのような地方自治体の枠組みではなく、自治体の上にブロックとして乗っかっていると。県とかをなくして... あまりにも理想論的になっ



兵庫県議会議員 和田有一朗様

てなんでも分権してしまえとゆうのは非常に危険だと私は思っているのです。

谷岡… ただですね先生、その最たる例として北海道がとった特区って言うのですかね、ひとつも変わってないと思いますが。制限をかけすぎてしまっただがために・

和田… だからそこら辺がね、難しいし議論していかなければいけないところなのですけど、地方自治法の改正のスタンスが驚くべきスピードでね、見えんとここで法案化されつつあるでしょ？そうやって進んでいくとね、地方自治政府みたいな感覚で分権されてしまう可能性ある訳ですよ。国家が分裂してしまうと、そういう点を注意していかなければと私は思っているのです。そうかと言って、国家官僚の言っている広域連合ってというのは、私はならん話やと思うし、道州制とは相容れないし、私は今、進んでいる道州制に対しては、非常にいいとは思いますが一点注意しなければいけないのは、国家のガバナビリティーを落とさない様に、制限付き地域主体型の道州制とこのを求めないかと、僕は今思っています。

谷岡… なるほど。ありがとうございます。後ほどまた広がっていききたいと思います。

山下… では、続きまして山下先生。
私の立場から言うと、道州制っていうのは大賛成。なぜなら、国の制度にも大きな問題があって地方交付税の問題、その地方交付税によって、がんばっているマネジメント経営能力の高い自治体でもがんばった努力っていうのはストレートに報われないのです。逆にあんまりがんばってない、いろんな補助金でどんどん借金をしながらやっても、それを交付税で還付されてその財政を手助けされると。国の制度でヒモ付き補助



和歌山県議会議員 山下大輔様

に、やっぱり全て任せるんじゃないに、やっぱり地域の責任という言葉です。どれだけの責任を持つのかっていうところは、またプロセスにおいて我々JICも税制まで踏み込んだ議論が必要ですね。

山下… 国のほうで受け持つ部分というのは、地方との話し合いの中でどういうものを国に残すか？ある程度の権限を地方にわたすことによって地方が自由に経済政策、地域政策とか作れるんじゃないかと。そういうものが地方自治法の改正から課税自主権なんかでもっと使えば、地域独自の経済政策も出来るし、その中で地域が活性化されていくのではないかと考えています。

谷岡… なるほど。ありがとうございます。では森先生。

森… 基本的には私は道州制には賛成です。平成の大合併で滋賀県は30ちよつとあつた町が今現在7つ位になりました。それから、7つあつた市が13市に・・・ということは、エリアも広く市が増えてきたってことで、広く物事を見ていくことによって、地域が元気になっていくと。建て直しを図ると。という意味で、道州制に近付くための一歩が今出来つつあるのではないかなと、私は考えています。地域主権型の道州制っていうのは、基本的にはすぐに道州制を導入することではなくて、まずは東京一極集中の本社機能を地方に出来るだけ分散して欲しい。いま道州制を導入したならば、東京だけが大きい国家予算を握ってしまうことになり兼ねない。まずは本社機能をまず地域に分散してもらおう。これを手順としてまず欲しい。それが地域の雇用や経済の発展に繋がっていくという風に私は思っています。

金というのがずっと問題になっていましたけれども、実はそういう国のコントロールによって地方っていうのはほとんど個性を無くしていったね、それが地方を衰退してきたひとつの原因でもあるだろうと、そういうことを考えた時に、地域が責任を持つて権限を行使する。道州制に関して、だいたい10から12、13のブロックに分けて、同州を成立させていくと、それぞれのブロックにおいて責任を持った地域経営、先ほど言われた地域の統治、ガバナンスっていうのをしっかりと作っていくという様なことが、絶対的に必要なことやと思います。そういうところから日本自体をもう一回元気にしていけるのではないかと、いう風に考えています。

谷岡… ありがとうございます。先ほどの和田先生もおっしゃっていたいた様



守山市議会議員 森貴尉様

そしてブロック制なのですが、九州とか四国や北海道は一つの括りでいけるとは思いますが、近畿の中でも滋賀県の場合は、中部が隣なりにあって・東海地区ですね。で、北陸が北のほうにあります。ということは、考え方も東海地区の考え方と関西地区の考え方と、分かれているところがあります。しかし、琵琶湖が真ん中にあり、近畿の水がめと言われる琵琶湖のことを考えれば、関西圏州というか、関西ブロックに入るといふ風に認識したほうがいいと思います。道州制のもうひとつの元気になるスタイルとしては、経済が中国をはじめアジア地区が非常にグローバル化しはじめ、ものすごいスピードで発展している。そこに対抗していくためには、それなりの規模を持って戦略を組まないといけない。

谷岡.. ありがとうございます。関西州、近畿州、ど

んな名前が当てはまるのか、今いちばん名前が通っているのが関西州っていう言葉が多いのでしようけど、企業がどんどん東京に出て行きますよね。法人税の話もあるのでしょうか、とにかく企業が出て行ってしまおうと雇用がまらず来れない。大阪なんて、堺市にシャープが来てくれたなんてことは嬉しいことです。

和田.. やっぱ財源ですよ。

企業に求めてもらうにはそれなりの財源が必要になりますよね。

谷岡.. ということは、さっきの和田さんの話じゃない

ですけど、権利を貰って、『関西州だったら法人税が上限ナン%ですよ』とか、打ち出すことが可能です。

和田.. 16パーセントですね

谷岡.. いいですよ、そうだったら。今の枠組みではなかなかそこまでは入れないですからねえ。FTA（調べて）の問題であるとか..。なるほどありがとうございます。

青野.. 青野先生はいかがですか？

僕の道州制についての考え方ですが、実現はまだまだ先の話だと思います。道州制の議論が活発になって、10年近くになると思っています。まず、政治家が道州制についての考え方がバラバラであります。バラバラで当然なんです、それぞれの背負っているものから議論が進まない！政治主導で、取りまとめていくことが出来ない！この基本的な議論がされていません！僕は、道州制の導入は、最大の行財政改革やと思います。なぜ、道州制を導入していかないと行けないのか？ 基礎的自治体の市町村、道府県、国、という3つの行政の構図の中で、ダブつき部分がたくさん出てきている。



大阪府議会議員 青野剛暁様

国の主導で進められる事業！全国一律の補助基準！地方の現場と乖離している税の無駄！それぞれの行政が重なり合う行政の無駄！これらの無駄を整理していくことが必要です！これらの無駄には、それぞれの利害が複雑に絡みあっている！

行政機関を整理する事は、人員削減を行うこと！地方に権限を与える事も、国の人員削減を行うこと！補助金行政をいじる事は、それぞれの補助対象に関わる方々との関係にメスを入れること！等など、

道州制、地方分権を進めれば進めるほど、国民にとつて、メリット可能性は大いに広がりますが、国、すなわち霞ヶ関の官僚は、自らの甘味を手放す事はしたくない！

昨年の政権交代が実現した総選挙でも、主要政

党のマニフェストにも、地方分権など、公約で掲げていた！

現実には、議論が全く進まない！政治家も、先程述べたしがらみからみあり、地元では声は大きいですが、東京に戻ればむにゃむや・・です。

だからゆえに、道州制の導入に関しては、まだまだ時間がかかるでしょう！

その間に、貴重な税が、行政の制度システムの限界により無駄に消え続けてしまいます。

こんな現状なので、我々、「大阪維新の会」が、今大阪でやろうとしているアクションが、大阪地方分権！大阪府と大阪府で1つの大阪を作ろうというワン大阪運動です。「大阪都構想」です。

なぜ大阪からヒト、モノ、カネ、情報が出ていくのか・・

強い経済要素を持ちながら、大阪の地盤沈下が進み、東京との年収格差も大きく広がり、廃業、失業率も、増え続ける大きな原因の1つが、大阪府・大阪市と同じ4兆円規模の予算を持ちながら、狭いエリア内で、バラバラ行政、二重行政、二重投資を行い続け、大阪としての経済戦略が全く描けないまま、大阪が進み続けた結果、日本国内、しいては、アジアとの競争の中で、埋没しかけている。

大阪のバラバラ行政が商売のしにくい街、ビジネスチャンスの生まれにくい街であるのが今の大阪。

だから、府・市がまず行政を一つに、わかりやすいシステムに変え、税が効率よく還元されるシステムを作り上げる事！

私の地元・東大阪等の、周辺の市町村も合わせれば、10兆円近く予算を要する大阪！

住民に近いサービスを提供する、大阪市などの基礎的自治体で行う仕事と、大阪府が行う広域行政の垣根が複雑になっていて、その垣根には、多くの税金の無駄が生まれている。

これらの行政の垣根の整理、仕事の仕分けを見直す事により、多くの余剰予算が生み出して行く！・・・これらの行政改革によって、強い産業基盤を創り上げる事を目指している！

大阪府地方分権は、大阪府の権限予算を市町村へ、大きな大阪の方向性、経済戦略、空港、港湾、道路などのインフラ基盤などは、広域の府が行うことを目指す！5年以内！

とにかく、稼ぐ都市、限られる財源を便りではなく、財源を増やす、パイを広げる、成長戦略を進める！

とにかく東京に情報が行くのではなくて、まずは大阪にアジアの窓口としての基盤を作ってそこから近畿圏に広げていこうっていうのが、我々が今進めておることです。

国の道州制の議論が進まない今、まずは、大阪府が、これからの都市経営のモデル示し、実現させて『次は、道州制どないすんねん！国は？』と、問題を投げかける。これが、我々、大阪維新の会の考え方です！

谷岡.. 今、先ほども何度かおっしゃってる【アジアとの戦い】っていうのがありますけど、つい先週もJICのアジア会議で、僕は初めてシンガポールへ行ったんですけど、びっくりしました。もう完全に大阪が負けているところか、東京も太刀打ち出来ない位のインフラ整備と清潔度と企業。面積は淡路島くらいの広さですよ？ほんとにアジアがこれだけ力を付けて来た時にどっかで太刀打ちしないと、ほんまに日本というの

は.. 今この刺激を若者が感じられないのだったら、特に商人って言われる大阪や滋賀や関西.. これこそ黒船っていうか、5年でも遅いなって思うのですよ。まさに今のこのドサクサ：政局の時に、近畿州、関西州なんてものは、大阪だけじゃなくて、関西を巻き込んで独立できたらいいのにと思っています。何があってもおかしくないでしょ？今の日本は。

青野.. 大阪は、地理的優位を生かしての、アジアとの関わりを強めていく事考えなければいけませんね！薩摩が、密貿易で栄えた様に。

谷岡.. まあそんな過激な話もあったところで、山本先生お願いします。

山本.. 僕は個人的に言うか、JICの時代から将来的には道州制には賛成だったのでですけども、うちの荒井（調べて）知事はどちらかと言うと否定



奈良県議会議員 山本進章様

的であり、県議会としてもその点においては知事と同じスタンスで、ゆくゆくは道州制で・・・私自身はそういう部分の県議会の方向性の中で一人だけ『道州制賛成です』と。

何故否定的かというと、それには色んな理由があるんですけど、明治時代に奈良県に災害が起こったと。災害が起こったときに援助も予算もそういうものが付かなかつたと。やはり地方切捨てみたいなことですよ。今まさしく奈良県は1300年祭をやっていますけど、やはり平城京跡があり、明日香京跡があり、藤原京跡があり、そういう行政のプライド、誇りがある。また奈良県は吉野という抱過疎地域がある訳です。田舎の小さいところが結局は切り捨てられたという様なことが根底にあります。成功したところがあるかもわからないけども、そういう部分で二の足を踏んでしまっているのではないかと思います。1800の市町村のうち財政再建団体が全国に23ある訳ですけど、そのうちの7つまで奈良県に入っている訳です。その7つはこのまま見捨てられてしまうのではないかと思っているでそこまで考える余裕も何も無いのが現状だと思います。僕はJCM出身でその当時から『道州制をして地域活性化につなげる。そういうものがあるべきだ』ということを考えて日本JCMで我々も方向性を見出してきた訳です。だけどいざ、田舎へ帰ってくるとそれどころじゃないと。これは、やっぱり方向としてはいいけども、今の現実からいくと現実味を帯びてこない。だから、先ほど青野さんがおっしゃられる様に、かなりの時間はかかるだろうと・・・そういう面では大阪都構想には僕は賛成で、それはひとつの見本を示していただいた。やつ

ぱり我々も付いて行きやすいと、そういう思いはありますね。

谷岡・・・なるほど。私も実は奈良県民ということで肌身で感じるのですが、役割としては大阪のベッドタウンだと思います。

山本・・・奈良府民ですよ。生駒市、香芝市などは奈良大阪府民なのですよ。

谷岡・・・実を言うと僕も、大阪の中学、大阪の高校、大阪のJCMに入っていると。こんな人がいっぱいいるんですよ。意外と奈良県民・・・っていうよりも、府民という意識が実は非常に高いエリアでもあるなと思って思っています。

山本・・・その辺の人たちはある程度、関西州になっても困りもしないし、抵抗感も無いだろうと。せやけど過疎の方は、恐らくそんなことは当然考えられない・・・

山下・・・よくある議論で市町村合併、全国大号令のものと行ったと。『でもやってもいいこと無かったやないか』と。言われるのはおっしゃるとおりで、その母体となる行政、市が実際に自分達の地域を運営して、戦略的な思考によつて、何をするかっていうビジョンが無ければ、道州制も合併するだけでは意味が無いと思います。青野さんがおっしゃった様に、大阪が関西圏においてそれなりの予算を持ちながら、将来に対して発展ビジョンを描いて、アジアの需要っていうものを関西に取り込んでいくことを本気で考えれば、そこには戦略的な思考も生まれるし、取り組みも前に進められるし。そこで大きな将来の可能性っていうのが広がると思うのですよ。

青野・・・先生がおっしゃるようにね、大阪府、大阪市を一体化しようというの、『えらいすごいことやりおるな』って話なのですけど、企業で言

うたらグループ合併の話ですよ。府市統合した後でどれだけの富をもたらすかということを示さなければ府民の方々には付いてきていただけない。その先にこれだけの経済効果、これだけの富をもたらします。基礎的人材には教育行政で生んだ利益を果実としてみなさんに与えていきますということまで、ちゃんと示して語っていないことには足元をすくわれてしまうし、その説明責任というのはきちんと訴え続けていかないといけない。

山下・・・続けてちよつと失礼します。

企業再生は選択と集中やと。経営資源は選択する方向をしっかりと絞って集中させていくことが大事だと思います。これからの地域っていうのも同じやと思います。実は今、地域間競争つてすごく言われていると思いますが、僕自身は『それはもう時代じゃないよ』と。逆に言うと、補完しあうつてことがすごく大事で、関西位の中で、お互い和歌山やたらリゾートやと、大阪やたらビジネスやと、京都やたら古い街並みを生かした観光やとか、そういうことをそれぞれ地域がそれぞれの個性つていうのを発揮する中で、関西の中でひとつの利益つていうのを追求していかないと、これからの将来つていうのは、本当の希望つていうのが見出せないと思えますね。例えば和歌山なんかでもね、周辺の地域では過疎の問題もある訳なのです。そしたら道州制になつたら過疎はほつとかれるつていう心配があるつて話は和歌山でもよくあるのですよ。でもそしたら今のまま行政を続けていてね、その過疎の地域をずつと守つていきますかね。

山本・・・いけないと思います。

山下・・・いけないですよ。だからね、いけないところ

の展望もないのに、今の状況ではまだしもマシンやっつけていうことを勝手にね、そういう幻想を抱かせているっていうのは実は大間違いで、例えば、今地方の過疎の町も村もね、それを生かす方法をもっと考えないかんし、それが活かしきれないなら人の移動っていうのも、これからは全国で考えなければならぬと思います。

山本… だから思いますのは、奇しくも東京で集めた金を地方へ分配する。その距離が和歌山や奈良の端まで来るのに、ものすごい間がある。それやったら関西州にしてはどうかと。

山下； おっしゃるとおりです。もっと可能性がありますよ。国の、地方で言うたら実業団みたいな政策の、紐付き補助金みたいな、地方として優先順位が高くない体育館をいっぱい作る。そんなことやる必要は何にも無いと思いますね・・・

和田… この道州制をね、現実的にロードマップ作っていくため都道府県を潰さなあかん訳ですよ。都道府県が何故置かれたか？

これは近代国家を作る時に、地方を統治するために置いた出先機関な訳ですよ。そこをおさえておかないと、潰せないのです。何故かと言うと、我々がいくら議論してもこれを決めるのは国家官僚なのですよ。

何故、広域連合を提唱したかと言うと、自分達のような人々が生きていく道を模索している訳なんです。じゃあなんで、国家のガバナビリティーが必要かという、国家という概念がある限りそれはやっぱ崩せないのです。国家のガバナビリティーを崩さないながらに主権を作るかっていうことを考えると、都道府県をどうやったらキレイに潰せるかって話を同時に進行しなければと、僕は思います。

森

… まあ、潰すと言うより機能してないとおっしゃてるのは、今回の口蹄疫の問題で宮崎県の知事がね、早めに手を打つために自衛隊を要請させた。結局国は動いてくれない。もう一県では力が無いということです。地域が連携し合っていたらここまで広がってないと思うんです。やはり災害や有事のときに、地域はすぐに動ける様にスピードを持って対策していこうと、北朝鮮がどうなるかわからんことも含めて、インフルエンザのことも常に起こり得ることだと思えます。対策としては、関西の規模で国に対して発言もしていかないと、相手をしてくれないです。連携をして補完しあいながら、国にも言っていく形が大事。規模的なものを含めて考えたら早めにやっばりやっつくべきです。

山本

… だからやっばり国の行政機関が140年間培ってきた、もっと言えば飛鳥時代から官僚制はズーっと続いてね。今の様にすぐに要請しても来ない、官僚の組織にやはり縛られてしまう。だから、そしたら関西州は何のために立ち上げるのか？

大阪都構想っていうのはとても明確だと思うのですよ。何のために道州制を作るのか？

やっばりそれぞれの文化とか地域性も違う訳です。だから、なかなか決まるまでには行かないだろうと、だから市町村合併でもそうなのですけど・・・

青野

… ほんとに独立的な力持ちで全ての権限をわたすまでには、道州制を決定してもプロセスがあると思います。その前にお互いの都道府県が公益的に連携して出来るような仕事の仕分け・・・まずそういうところから入っていかないといいと思います。

結局は関西広域連合の話になってしまいます

が、近畿の各県が全員賛同しないことには、国としては認めないっていう、そういう様な法律の縛りがあって。6月の府議の成長戦略の中で国の出先機関の受け皿を、関西広域連合で受けさせてくれという様な形で乗せたい・・・という想いは知事としてはあったのですけど、それは無理です。それをさせたくないっていうのは国です。出先機関を潰されるイコール人員削減に繋がっていく。時間はかかるけど、国にも言うためにはまずは俺ら大阪からやろうやないかというのが、僕らが今やっている話ですよ。

例えば、水道の話でこんな事がありました。地元・東大阪は、奈良県生駒市との境が生駒山です。山間部に水道の配管をするのに2億円近い予算を必要です。配水場までポンプアップするのに。その配水場から高低を利用して水を流します。

でも生駒山を越えれば、すぐ近くに生駒市の配水場があるんですよ。そこから水をいただけなにか？こういうような話を東大阪市、生駒市で話し合い、『それはやりましょう！』となったんですが、このような分水の権限の窓口は、都道府県にあり、国へ許可申請を行います。

結果は、大阪府から『いや、それは法律的には出来ないです。』こんな、問題がありました。

道州制導入に行くまでにも、こういう様な問題に目を向ければ、多くの無駄があり、国目線ではわからない事例がたくさんある。

青年会議所でのようなことを取り組んでいただけなのであれば、身近なところでムダって何があるかなって、そういうような事を具体的に挙げて、提言していけば面白いのではないかなって思います。

谷岡… いちばんわかり易いことと言えば、観光かな。

今日もせんとくんのピンバッジを付けてきていただいています。たぶん各県とか府では、観光のいろんなキャンペーンをやり、予算も持つておられる。でも、平城1300年というのは奈良だけでは終わらないですよ。京都にもお泊りになられるでしょうし、ちよつと足のばしたら和歌山も行けるでしょうし…

山下… それだけのプロモーションが出来ているのかってことですね。

谷岡… 奈良だけの観光PR予算じゃなくて、関西、近畿としてのプロモーション予算を組めばすごいことに… かつ各府県の観光予算は削減出来る可能性がありますね。

山下… 1300年というね、ひとつの我々の国家としての誇るべき歴史を持って、そういうことをせっかく一つのイベントとしてやってくれているのに、それを例えば国内、出来れば全世界にね、どう例えばアピールするかっていう… プロモーションっていうのは残念ながら和歌山も当然そうですね、難しいですよ。今の状況で… 山本… だからそういう一点だけ捉えても関西州っていうひとつの自治体を形成するというのはものすごくプラスではないかと思えますね…

山下… メリットも、ものすごくあると思いますよ。さつき会長が、シンガポールに行ったっておっしゃっていましたよね。あそこの年間の予算は、500億シンガポールドル。これは日本円で3.3兆円。例えばさつき言った日本を10のブロックに分けるっていうのは、日本の国家予算は国家予算としてあって、都道府県が予算組みをしている全体の総額っていうのが、だいたい45兆位あるのです。町村の全体の予算額を総計

も45兆円くらいあるのです。あわせてほしい90兆。100兆近いところまであるのです。これを単純に10で割っても、8兆から10兆をワンブロックで使える訳ですよ。今最先端の国の3倍くらい一つの行政帯の中でまとめて、しかも予算規模としても8兆から10兆っていう位の予算規模を持って、将来的に戦略的な投資をしていく。

青野… 大阪都構想の中から離れている、南河内とか泉州地域なんかは入っていないですよ。それぞれ財政難で苦しんできているのです。基礎的自治体と広域行政を担う大阪府の間での仕事の仕分けをすることによってね。余剰予算を出していく。そしてお金を稼いでいく。その稼いだお金のうま味(果実)を基礎的自治体に提供することによって、住民に近い優しいサービスを充実をはかる。

だから僕は関西の道州制っていうのは同じ庭やと思っっているのです。同州として全体でもうかつたお金を基礎的自治体、住民に近いサービスを提供する。住民要望ってたくさんある。役人はまず何を言うか。「お金ありません。財政難でどうしようもないのです」… 理由で。住民要望が却下されるケースが沢山あります。でも金はありません。自分達の身分を守るだけの財源はしっかり確保しているでしょ。そこをきちんとしてやるってことが僕は大事やと思うのです。

和田… 僕は最初に言いましたようにね、道州制はすぐになると思っているのです。民主党政権で。それは何故かと言うと、地方を切り捨てるためです。でね、何で明治国家が出来たかという、地

方を切り捨てて身軽になるために出来たようなものなのです。突然、道州制やってくれと切り捨てるかの様に投げられた時に、どう受けるかっていうことも、考えとかなないといけない段階に入ってきていると思っっているのです。

まあその議論の中で、例えば国に頼むとか、例えば国に切り捨てられるとかね、感覚的に国っていうのが何か上位にあって、頼まないかん、すがらなければならぬと… 和田… 僕はそういう意味で言っているのではないですよ。

切り捨てられることも無いし、逆に我々が国家のブランドデザインを描いたら良い訳であってね、それに対して我々の代表者として、衆議院も参議院議員も選んでいるわけやから、その人間が単なる地域でのエゴや、保身のためであるとかではなくて、例えば関西州の中で自分達が良い首長を作り、良い関西州を作りつてことを本気で議論すれば、そんなこと別に向こうが勝手に切り捨てるのか、官僚が作れるのかってことでは本来無いはずやから。

国に対して国が何かをやるのではなくて、国を自分達で変えるのだと。しかもそれは会長さんがおっしゃる様に、そんなに時間も待たずに、国家予算というの自分たちが稼いでいる税収以上の、借金をしながら組んでいて、こんなこと長続きするわけがないですよ。だから、まだ余力があるうちに、決断しなければいけないし、そういうことに対して自分達が純粋な想いでね、政治にももっと関わっていく人間というのを、の中でも作っていかないと、自分達の商売にも確実に影響及ぼすことやからね、そういう部分

では最初に言ったようにこのスタートというのは現状認識やと。健全な危機感を持つてこそ、地域も変えていけるし国も変えていけるし、道州制でも実現できると。そのために行動することが大事やなっていう風に思いますね。

谷岡… 先ほど青野先生も、政治家の中でも道州制議論っていうのはもう10年くらい前から、近畿地区のJCでも本格的に議論が始まったのも10年になるのではないのでしょうか。

山本… いやもつと・20年くらい前だったと思いますよ。

山下… もつとね！？道州制をね、提言したのは一回調べてみたらわかるんですけど、とても古いのですよ。まだほんとにね、敗戦後にね、道州制議論というのは一部の学者でやっていた・以上に、国民運動としてやろうとしてたん」はほんとに先駆けなのですよ。

山本… 日本JCがね、だから20数年前ですよ。

谷岡… ただその・道州制っていうのを・なんかまだ官僚に頼ろうとしているのですよね。官僚さんにお願いで何とかブロック分けしてください。こんな案を持ってきましたよ。・よく考えると、こんなやり方をしていても、自分らの出先機関が無くなるようなことをね、彼らが考える訳ないのですよ。

山本… 連邦制じゃないしね、中央集権で、地方に対して、だからさっき言った様に問屋がなんぼもあって、未だに地方は問屋制度です。仲買人がたくさんいる訳です。

谷岡… で、その仲買人を減らしたらユニクロみたいなことが出来る訳じゃないですか。それが一つの関西州のカタチであって。で、そろそろ核心に入りたいたいんですけど、じゃあどうやったらなるのかっていう時に、答えはずーっと出なかった

んですよ。で、たまたまこの大阪のWTCですね、橋下知事が住民からと言うか、上からこうしなさいじゃなくて、自分らで合併してこうよと、府市統合でONE大阪っていう構想を掲げられました。ONE大阪になってからのロードマップをたどっていくと最後に『関西州の創立』って書いてあるのですよ。関西州にどう繋がっていくのかっていう部分をプロセス的にお願いします。

青野… 流れとしましたら、平松市長なんかは『今すぐにも道州制や』と訴えています。でも現実には道州制に行くまでに、各都道府県の調整に時間がかかりますから、まず自分達の町で出来ることからやっつけていこうというのが、我々の考え方。大阪で大阪都っていうものが出来たときに、はじめて新しい行政のあり方、政治の新しいシステムっていうのを大阪から示そう。それを一つのモデルとして出来たときに『大阪がここまでやってのだから、国も道州制を』との選択肢を僕ら突きつけていこうと。

山下… ONE大阪っていうのは、明確なメリットを見せようとしているんです。ONE大阪が見えたときに、これだけ府県、府市、そこが出来てきたら行政改革も出来るし、余剰財源も生み出せたし、これで統治できる。でもそれを見せていって納得するっていうのはやっぱり5年〜10年まだかかっていく話になっちゃうから、僕としては当然その取り組みはやっていたきたいし、JCの中でもさっき言った現状認識が大事で、今の状況ってどうですか？地方自治の現状っていうのは、ほんとにもう手足縛られてね。がんばる努力をやるインセンティブっていうのはどこにも無い訳なのです。今の首長選挙なんて

誰がなっても一緒やという様な自治体が殆どです。でもそこに対して、権限と責任というのを与える中で、そして自分達もちゃんと選ばないかと、その中でいま言っている例えば道州制の議論の中にもね、やっぱり地域が変わっていったら自分達の生活も豊かになるし、仕事自体も、もつともつとと発展していくようになっていく・そこをね、JCとしても・実際にやってメリットを見せて納得してもらおうっていう段階を踏んで堅い手法やと思いますけど。道州制って議論したときに何かばつと・今までと違う様なことやから、何か面白いこと起こるかもわからんなどという位の認識しか無いのだと思う。でももつと地に足付けてね、今自分らの足元を見よと。これだけ比例する自分達の地域経済があるわけやから、このままじゃほんとにいいことは無いのだと。

谷岡… 大切なのはそこなんですよね。

山下… それが国民運動になって、政治的な決断を生み出すと・いう様なところへ行かなあかんのじゃないかと。

青野… さっきのプロセスのところが・じゃあ何年後に道州制なのだろうと。これを明確にね『平成何年です』とハッキリ言って言えないです。僕らが今やろうとしているのは、議論よりかはまず行動。口動かすよりはカラダ動かさせているのが、我々、大阪維新の会の考えていることとあります。大阪都構想というのも、先輩議員に聞いたら四半世紀前からの議論。

今回は、府市統合の為に本当に、腹くくれるか？大阪府と大阪市、特に大阪政令市なんかは区単位で府議会議員と市議会議員が長年にわたって安定したポストとなるなか。一緒にすることに

よって各々が選挙で戦いをする。その覚悟をまず議員が持っているか？

だから、それ形を作り上げるのは、細かなことより、大きな方向性を示して行動する。知事の言葉を表現すれば、『走りながら考えていきましよう』っていうのが今のプロセスの答えです。

その途中で、大阪からまずカタチを変えていつている中で、ひょっとしたらうちもうちもと、道州制の議論が急速に速くなるかも知れないと、でもそれはそれぞれの都道府県との調整がある話なので、まずはそれを起爆材として大阪がそれを示していこうと。

和田… 現実的なプロセスで、何が一番手っ取り早いかというと、大阪都構想もそうなのですが、合併してどんな政令市作ることなのです。全部政令市になってしまうとね、都道府県の出る幕が無くなるのです。もともと大阪都構想っていうのが昔からあったっていうのは、特例市って考え方なのです。5大市っていう、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸は戦前から特例市を求めていた。ところがそれを認めないということで、代わりに政令市っていうのを作った訳ですよ。どんどん政令市が増えていった訳ですよ。増えていくと権限はおのずと移乗されちゃうわけですよ。それが都道府県でいっぱいになると、その価値は無くなってくるのです。その次に県境を超えて合併をし始める訳ですよ。そうすると、道州制って早いのです。

青野… 大阪府はこれから発展的解消をしていきます。要は大阪府自体をなくしていくのです。大阪府としての仕事っていうのは、府の中で権限を渡していく…仕事はなくなっていくのです。

山本… その方向で、政令市っていうのはわかるのです。

だからわかりやすく言えば、直接選挙で選ばれている知事、それから政令市の市長、市町村合併でもそうですけど、議員よりも市長村長、知事、こういう人の考え方によって大きく変わる訳です。たぶん関西州やったら、州知事やったら州知事がひとつの公約、マニフェストを持つて出る。

それをわかりやすいように今の大阪の知事と市長がセットで戦おうというのといっしょで、したら究極に僕が言うのは、総理大臣。これを国民が直接選挙で選ぶ。そういう様なシステムに変えて、国のリーダーが例えば『道州制やりますよ』と。また『私は今までの大きな政府でやっていくのですよ』と。そういう部分で、ある種地方は直接選挙でやっているのに、国は議院内閣制でやっている。これは明治維新の取り入れ方。それは今となっては大きな弊害になっている。だから官僚もそこに依存してしまっている。これが僕は究極ですけどね。

谷岡…

森…

憲法改正はひとつの手法やと思っています。直接総理大臣を選ぶことによってね、それで変わっていくのもあるんですけども、JCに立ち返ったときに、山下県議がおっしゃった様に、地方が元気な状態で今あるのは、各JCが地域のことでよく知っています。そうすると、その地域のことを発展させようと思うと、JCから議員を出していけば、元気になっていくと思うのですよ。JC道州制党みたいなの。

谷岡…

今度7月10日に、近畿地区の会員大会がありまして、近畿中から地域のことを一番よく知っているメンバーが、泉佐野に集まってくるわけですよ。一つの決起じゃないかと僕は思っています。関西州をほんとの意味で作り上げていく

のは、ここにいる参加者のみなさんですよ！と、具体的に何が出来るのかということをも6000人のメンバーに訴えたいと思います。

青野…

恐らく、いろんなところのJC出身の議員さんがおられると思うのですが、それぞれ政党の縛りとか背負っているもんがあつて、自由きかないのですよ。だからJC党みたいなんが立ち上がったって、政策のプロセスと決定をはかるようなことが…客観的にJCのメンバーさんとお付き合いさせていたでいてる中で、いつもみなさん熱いものを持っているし、最後はそれやと思うのですよ。自分達の町を良くしたい。そのためには議論どうこうじゃなくて、入り込んでごちゃごちゃやる、というのが一番我々若手に求められることじゃあないかなって思うのですよ。

山下…

現状あるものっていうのを当たり前やとか、仕方ないとかそう言うてる限り何にも変わらないと思うのです。現行制度の延長線上で日本も中央も未来は無いだろうと。やっぱりさっきの政令市増やすって話もあつたけど、こんな全くだめ。国管理のもと、都道府県抜かすだけのことやから、国管理の状況を残すと、今言うてる地域主権が、地方分権じゃあないんよ。地域が主体となって自分達の自己責任によって地域の未来を切り開かないかん。そこには地域経営だとか、そういうところの厳しさと自分らの責任感というのを持って地域に対して関わっていかんと、本当の地域再生っていうのが僕は無いのだと思うんでね。そういう意味では現行制度でその中でと言うよりも、発想をちょっと変えて、最初に会長が言われたように維新やと。新しいキャンパスに新しい自分達が絵を描くっ

て言うぐらいに覚悟を持ってやらんとね、改革なんて出来んし、新しい日本なんて作っていけないのになって想いを個人的には持っているのですけどね。

谷岡.. その一つのカタチっていうのが、「関西州」っていうものに非常にあるのではないかと。それについては具体的にアクションをやっぱり起こしていかないといけない時期に来ています。

「JC井戸水論」と昔JCの先輩によく教えてもらいました。JCで水道の水をひねったら中央の水は出てこない。その地域の井戸水が滾々と湧き出てくる。これがJCの良さなのだ！というのが根本にあるのですよ。

ほんとに地域・地元のことを一番よく知っているJCメンバーが、この維新回天のこのときに、声あげなかつたら何のための井戸水や。それやったら中央の水と同じ水でできとるやないかと。そういう気概を、大先輩に教えていただけたと感謝しております。

この対談というか、色々なディスカッションの締めにしたいのですけど、みなさんに見ていただいてHPや色々な配布物なんかにして、会員の意識を高揚させるために今日の対談を使わせていただきたいと思っておりますので、本当にありがとうございました!!!

